

関数の等号

等号はもちろん「左辺と右辺が等しい」ことを表す記号である。とは言え、算数の学習を通して等号を「電卓の $\boxed{=}$ キー」のように捉えている生徒のいることはしばしば指摘され、生徒が中学校の数学でつまづく要因の一つともされる。(参考：[式の学習のコツ](#))

では、関数単元で現れる等号はどのような意味を表すのであろうか。例えば、比例を学習すると「 $y=2x$ 」という式が出てくる。この左辺は変数 y であり、右辺は変数 x と数2の積になっている。変数を含む2つの式が等しいとはどのような意味であらうか。

[2つの数が等しい](#)という意味は、算数の学習を通して子どもたちにもわかるであらう。また方程式では文字式を含む等式が出てくるが、文字には[何らかの数値が入る](#)と想定されており、その時の文字式の値が左辺と右辺で等しくなるような文字の値を話題にしているとすれば、結局は2つの数値が等しい場合に帰着できる。

しかし関数で現れる $y=2x$ などの式における等号は、左辺も右辺も変数を含んでいる。「2つの変数が等しい」とはどのようなことを指すのかを、それ以前に学習しているようには見えない。例えばこれを、変数 y が常に $2x$ と等しくなるように変数 x に従属するということを意味する、いわばこの等号により x と y の対応関係を規定するという意味であると捉えることはできるかもしれない。 $f(x)=2x$ と書いた時にはそのことがよりいっそう明確である。ただ、こうした等号の使い方は、それまでの使い方とはまったく異なっているのではないか。だとすると、そのことも説明しないと、関数の式の[意味は理解できない](#)ことになる。

あるいは左辺と右辺の数値が等しいという捉え方のままで、関数の式の等号も捉えることができるのであろうか。

こうした等号の意味のとらえにくさと私たちの説明不足も、関数を理解しにくくしている一因になっていないだろうか。(参考：[関数の定義](#))

【[算数・数学教育におけるIAQ](#)に戻る】